

めでたき限りにこそ。

最後に在校生の假裝行列あり。佐方先生後閑先生時代と題して唐人髷の黒ゑりつけたる初々しき二人の娘出で来る。續いて春田先生時代下田先生時代といふを見れば島田髷なり。來れり來れり續いて來れり題して波佐谷先生時代安井先生時代といふ。こはまた如何に前とは異なることよ！純日本式より一躍して純洋式に變りたりとやいふべき。其の頃は上流社會に終夜の舞踏會など屢々ありし時代を遺憾なく表はしたり。見よ其の張れる胸ひける裳より帽子も靴も實に是れ當時の歐化主義の權化にあらず也。裝へる人々の化粧巧にてあまりに常と變りたれば遠くよりは誰やら見わけ得べくもあらず。揚々乎として二人づゝ腕を組みつゝ行く様當時はさもこそと思はれたり。

續いて西島先生岡田先生時代といふが来る。これはまた前の時代の反動か再びあげまき紋付の和服姿なり(24年より32年頃までなりとぞ)。その次は大江先生時代といふ袴を用ひ初めたるはこの頃なりとぞ(33年)。東髪Sの字形なる如何にも昨日古き寫真にて見たる人々のまゝなり。

尙續いて35年頃の二階堂先生時代といふのが来る(前がみの初めなりとぞ)。

一隊の行列表すれの音も爽かに講堂をめぐること三回見る人皆起ちて拍手喝采して止まず。我亦折悪く寫眞機を持合せざりしを恨みぬ。

### 紀念日第三日

午前九時より晝まで約一時間づゝにて下の三つの講演ありたり。

本校の歴史

福羽美靜先生

中村敬字先生

午後は音樂會あり

かくしてこの目出度き紀念日も無事に過ぎぬ。他日何かの參考にもと思ひてかくは記し置くなり。

### 自大正四年七月七日 會員領收報告 至同 年十一月三十日

一金六拾錢宛 (大正四年分)

豊田ヨシ 張佩芬 萩原セシ 門田あき  
鈴木スヰ 常松ツネ 津田まゆみ 安井トク

一金壹圓貳拾錢宛 (大正三年ト四年分)

松岡チカ 井合とき 大地原たみ  
大正五ト六 中井スエ

金壹圓八拾錢宛

大正二ヨリ四 中原ふさ代 大正三ヨリ五 吉田武子  
大正四ヨリ六 安西喜代 大正五ヨリ七 秋山

金貳圓宛

大正五ヨリ七 熊澤下ク 明治四一後 宇佐美けい  
外ニ二十錢 半ヨリ四三

金貳圓四拾錢

明治四一ヨリ四三 田村ふじ

金貳圓五拾錢

明治四一ヨリ四三迄 遠藤きみ

金貳圓六拾錢

明治四五ヨリ大正四 平山安代

金參圓四拾錢宛

明治四四ヨリ大正四 歌澤のぶ 同上 高尾花子

金參圓五拾錢

大正三ノ殘ヨリ八迄 關あさな (猶殘三十錢預り)

金四圓貳拾錢宛

大正四ヨリ七迄 和知テル 明治四三ヨリ大正四 原口キヨノ

金 五 圓

明治四〇ヨリ大正四 北村きみ

金五圓六拾錢

明治四二ヨリ大正五 清水ツル

金五圓八拾錢宛

明治四一ヨリ大正四 松本マサ 渡瀬 茂 中野ゆき

以上

大正四年十二月十八日印刷  
大正四年十二月二十日發行

(非賣品)

東京女子高等師範學校  
學 術 談 話 會

理 科 部

東京女子高等師範學校内

編 輯 兼 人 平 島 權 藏

東京市京橋區新富町一丁目六番地

印 刷 人 久 保 忠

東京市京橋區新富町一丁目六番地

印 刷 所 明 正 印 刷 株 式 會 社

電 話 京 橋 (三 五 〇 九) 番